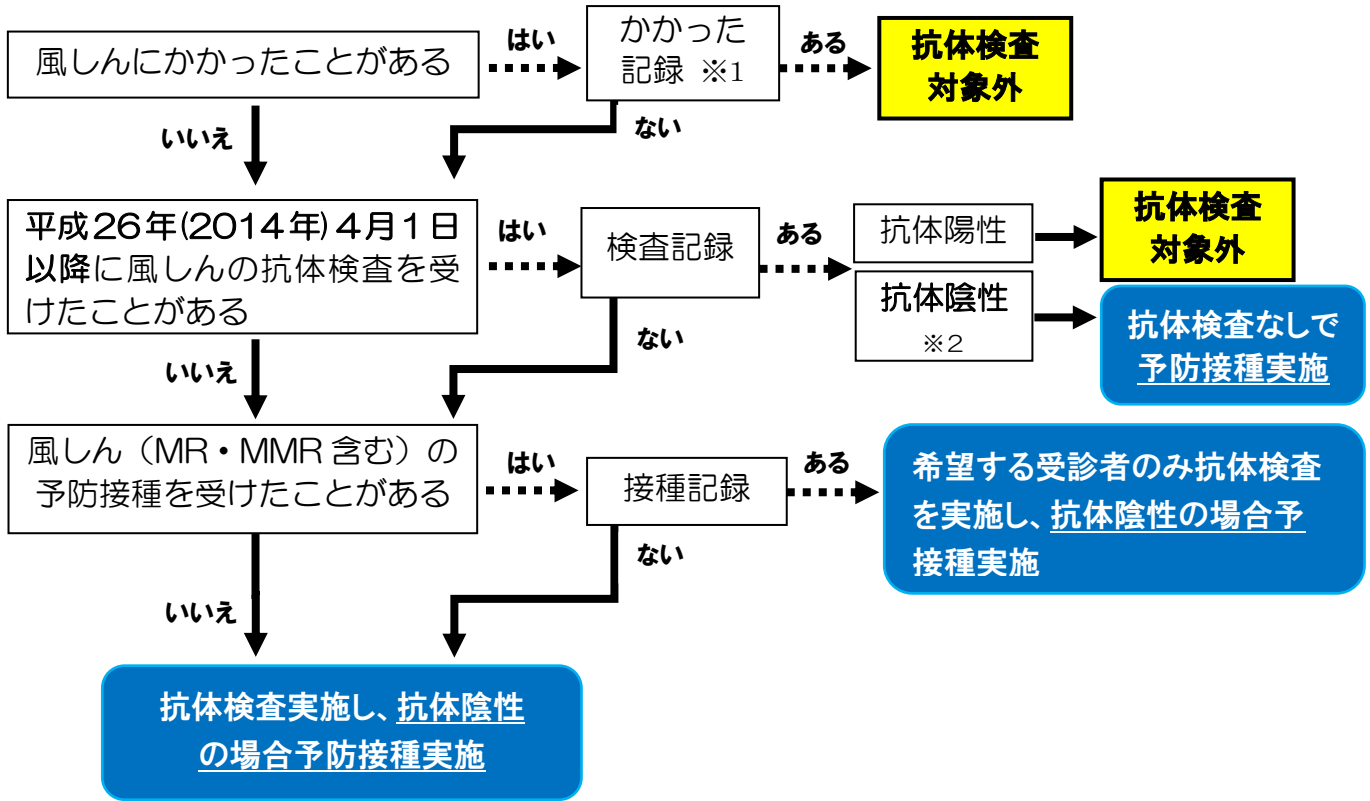


風しんの抗体検査実施から予防接種実施へのフロー



※1 かかった記録は、ウイルス遺伝子検査 (PCR 法) による風しんウイルス遺伝子の検出、ウイルス分離・固定による風しんウイルスの検出、風しん抗体の検出 (IgM 抗体の検出、ペア血清での抗体陽転又は抗体価の有意な上昇) により医師がかかったと判断した場合の記録です。

※2 抗体検査結果が陰性であるとは、「定期接種の対象となる予定の風しん抗体価」を満たすものをいいます。詳しくは医療機関にご相談ください。

風しんに関する豆知識

Q：なぜ風しんへの抵抗力が必要なのですか？

A：電車や職場など人が集まる場所で、多くの人に感染させる可能性があります。妊娠早期の妊婦が風しんに感染すると、赤ちゃんが先天性風しん症候群になる可能性があります。

風しんとは

感染者の咳やくしゃみ、会話などで飛び散るしぶき（飛沫）を吸い込んで感染します。

小児は発熱、発疹、首や耳の後ろのリンパ節が腫れて、数日で治ります。

まれに、高熱や脳炎になって入院することがあります。

成人は高熱・発疹の長期化や関節痛など重症化の可能性があります。

先天性風しん症候群とは

妊娠初期（20週以前）に風しんに感染すると、赤ちゃんが先天性心疾患・白内障・難聴を特徴とする先天性風しん症候群をもって生まれてくる可能性が高くなります。